

色素療法

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード: 作成者: 横山, 軫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30640

原著

色素療法

ドクトル 横山 軫

特種ノ色素ヲ研究シ之ヲ應用シテ人体ノ治病保健美容ノ方術ヲ盡サントス。

凡ソ有機態殊ニ生物ハ色素ヲ以テ其容貌健康等生存ノ本領ヲ顯ハサザルモノハナシ、春ノ彌生夏ノ深綠秋ノ霜枯ハ獨リ植物界ニ限ルニアラズ、動物界ニモ亦之ヲ免レザルベシ、サレバ佛者ノ所謂無常ノ風一度吹キ來レバ紅顏空シク變ジテ桃李ノ粧ヒヲ失フトハ是レ人生四季ノ變化ヲ急變ニ限絶ニ言句シタルモノニシテ秦ノ始皇ハ甚ダ是ヲ慨シ永久ニ彌生桃李ノ粧ヒヲ保タント欲シ不老不死ノ藥ヲ求メタルモ、亦彼ガ青壯ノ時期ヲ經過シ、漸ク彼ノ皮膚ハ色澤ヲ失ヒ髮毛霜枯ト變ジ來タルヲ悲ミタルモノナラン。

我國ニモ神代ノ古ヨリ常綠即チ常磐木ヲ以テ歳ヲ飾リ神ヲ飾ルモ亦コノ意ニ外ナラザルベシ。

唇頰ニ紅シ髮ヲ染メ皮ヲ白ラゲル所謂美容術モ亦タ彌生桃李ノ粧ヒヲ益々濃厚ナラシメ若クハ其ノ缺乏ヲ補ハント欲スル色素療法ノ一部タルヲ失ハザルベシ。

抑モ世界萬物ヲ養フ太陽ノ光即チ日光ハ、モトコレ七色ヨリナリ、吾人ノ身体組織ヲ營養スル血液モ亦真紅ノ色素ナリ。

複雑ナル構成ト美妙ナル機能トニヨリ眞紅ヲ呈スル血液ガ快潤ニ豊富ニ吾人身体ヲ循環シ、以テ勇壯ノ血色ヲ顯シ所謂彌生桃李ノ粧ヒヲ保全スルモノニシテ、若シ之ニ反シ其ノ補充ニ乏シク或ハ缺キ若クハ構成ヲ誤ルニ於テハ漸次老色ニ傾クカ或ハ已ニ病的ニ陥リタル皮色ノ反應ヲ呈スルモノトス。

今特種ノ病毒血中ニ侵入スルヤ血中ニ特異ノ侵害ヲ來タシ其毒性ニヨリ血液ノ變化ヲ反應スル特種ノ血色ヲ顯出スルモノニシテ例之バ癩病ニ於ケルガ如ク結核ニ於ケルガ如ク又微毒ニ見ルガ如シ。

吾人ハ更ニ研究ノ步道ヲ進メントスルニ當リ前提トシテ左ノ諸項ヲ了察スルコトハ茲ニ缺クベカラザル案件ナリ。

- (一)、身体重要ナル色素ヲ檢索スルコト。
- (二)、如何ナル事物ガ如何ナル状態ニ於テ血色即チ血液ヲ侵害スルモノナルヤ。
- (三)、色素ハ元來如何ナルモノナルヤ。

一、身体重要ナル色素ノ檢索

今人体ヲ剖檢スルニ先ヅ体内異常ノ重荷ヲ負フモノアルニ驚カズンバアラズ、重荷トハ何ゾヤ、是レ即チ二大色素製造所タルヲ知ルニ於テ亦タ驚カズンバアラズ。

甲ハ胆汁色素製造所ニシテ肝臟ナリ。

乙ハ脾臟骨髓淋巴ニシテ鮮紅ノ血液製造所ナリ。

而シテ胆汁色素ハ吸收排泄ノ道ヲ司ドリ血液ハ全身營養ノ道ヲ司ドル、然レドモ胆色素ハモト血色素ヲ原料トシタルモノナルヲ以テ先ヅ血色即チ血液ノ研究ヲナスハ、コノ問題ノ主眼タルコトヲ知ルベシ。

二、如何ナル事物ガ如何ナル状態ニ於テ血色即チ血液ヲ侵害スルモノナリヤ

往古ヨリ疾病ハ神ノ意トシ近世之レヲ「バクテリア」ニ歸シ今ヤ全ク特異毒素ノ化學的反應ナルコトヲ證明セラルルニ至レリ。英人エーナハ率先コレガ研鑽ヲ重ネ即チ色素中、酸性色素ト亞爾加里性色素トヲ檢出シ之ヲ應用シ血液中血

球ノ性状ヲ明カニスルコトノ研究ニ成功シエールリッヒハスベテノ血球ヲ明カニ三種ニ分別セリ。即チ(一)酸性反應細胞(二)鹽基性反應細胞(三)中性或ハ兩性反應細胞トス。尙ホ同氏ハ血中ニ於テ血球ノ他特種ノ物質ヲ指示セリ、教授カブツトハ凡テ疾病ノ診察ニ血液検査ヲ條件トシ而シテエールリッヒ氏等ノ三性血球ノ反應ハ多クノ疾病ニ各々特異ニシテ大抵毎常一定ノ計數ナルコトヲ表示セリ。即チ酸性細胞ノ増減或ハ鹽基性或ハ中性細胞ノ増減等或ル病毒ニヨリ其ノ特異ノ病症トシテ見ルコトヲ得ベシ。要スルニ或ル病毒血中ニ侵入スルヤ其毒性ニ對應スル血球並ニ特異ノ物質ハコレガ防禦ニ當リ戰鬪ヲ勉メ、血液ヲシテ尙ホ生理的本能ヲ營マシメント欲スルモ戰鬪ニ消費セラレタル事物ハ血液構成ニ變化ヲ來タシ血色既ニ健康ニアラズシテ其ノ病毒ノ性状ニ反應スル特異ノ病的血色ヲ表示スルモノトス。血液ハ獨リ病毒ノミナラズソノ製造所機關及ビ原料ニ故障アルトキハ從ツテ變化ヲ起シ其ノ變化ニ對應スル血色ヲ顯出スルモノトス。

三、色素八元來如何ナルモノナルヤ

吾人今幾多ノ研究ヲ通過スルトキニ色素ノ變轉甚ダ極リナキモノナルガ如シト雖モ其ノ反應ト本態トヲ注視スル時ハ左ノ則言ニ外ナラザルベシ。

色ハ性ナリ性ハ色ナリ

即チ或ル色素ハ性ニヨリ無ヨリ起リ或ハ變色シ或ハ脫色無ニ歸スルモノニシテ、而シテコノ本態ヲ明瞭ニ説明スルモノハ「ラクムス」ナリトス。

「ラクムス」[Lakmus]ハ地衣類ニ屬スル *Lecanora tartarea* ヲ主トシ其ノ分布頗ル廣クカナリアアツオール群島、亞弗利加地中海及ビ東印度ノ海岸岩石上ニ產生シ特ニ和蘭ニ於テ製造スルモノニシテ暗藍色ノ小骸子塊又ハ小板片ヲナシ其ノ一部ハ水ニ溶解シテ藍色ノ液ヲナス、コレニ酸ヲ加フレバ赤色ニ變ジ亞爾加里ニヨリテ又藍色ニ復ス、酸化劑及ビ還元劑ニハ甚ダ抵抗力弱クシテ直チニ脫力ス、又水溶液ヲ密栓シタル瓶中ニ貯フルニ漸次脫色ス、然レドモ空氣ヲ

(316)

通ジテ振盪スレバ概ネ復色スルヲ見ル、コレヲ以テ「ラクムス」ノ脱色ハ酸化或ハ還元ヲ意味シ其ノ藍色ハ亞爾加里ノ表示ニシテ赤色ハ酸ノ表示ナリトス。

カ、ル變化ハ獨リ「ラクムス」ニ留マルニアラズシテ凡テノ色素或ハ事物ニモ亦コレヲ見ルコトヲ得ベシ。

今健体ノ動脈血ハ酸素ヲ含有スル「ヘモグロビン」ニヨリ鮮紅色ヲ呈スト雖モ其ノ酸素ヲ脱却シ炭酸ニ富ム靜脈ニ移行スルニ至リテハ直チニ暗藍色ニ變化スルモノトス、故ニ動脈血ノ鮮紅色ハ「ヘモグロビン」ノ酸素ニ反應セル表示ニシテ靜脈血ノ暗藍ナルハ其ノ炭酸ニ反應セル表示ナリトス、而シテ「ヘモグロビン」ノ含量ニ差異アルモノニアラザルベシ。

健体ニ於テ血清ハ常ニ弱亞爾加里性ヲ以テ血液ヲ保全シ、「ヘモグロビン」ノ自由ヲ保護スルモノニシテ而シテ三性細胞並ニ特種ノ物質ハ常ニ相共働シテ血清ノ弱亞爾加里性ヲ保全スルモノトス。此等ノ動作ハ幼老男女強弱ニヨリテ各々異ナリタル動作ノ計數ヲ顯ハシ從ツテ各々異ナリタル血色ヲ表示スルモノトス。

病毒若シ血中ニ侵入スルトキハ三性細胞ノ中、毒性ニ對應セル細胞並ニ特種ノ物質ハ甚ダ敏活ニ奮闘シ血液ヲシテ尙ホ生理的本能ヲ營マセシメンコトヲ勉ムト雖モ、其ノ變化ハ既ニ血色ニコレヲ反應シ戰鬥現狀ヲ表示シ、又病毒毒性ニヨリ各々特異ノ血色ヲ呈スル所以ナリトス。

余ハ尙ホ胆汁色素ニ就テ説キ色素化學ノ妙理ヲ論ジ而シテ問題タル治病保健美容研究ノ歩道階段ニ進マント欲スト雖モ前途甚ダ高遠タルヲ以テ之ヲ他日ニ譲リ茲ニ附ケタリトシテ「フクシン」色素ノ應用ヲ述ベントス。

「フクシン」色素

「フクシン」Fuchsin ハ鹽基性アニリン」色素ニ屬スルモノニシテ石炭酸溶液 Karbofuchsinlösung ハ細菌染色用色素液中最モ強力ナルモノニシテ芽胞鞭毛等ノ難染体モ良ク染色シ又特ニ結核菌、癩菌(抗酸性菌)等ニ對シ特殊ノ染色力ヲ有ス。

「カルボールフクシン液」ノ製法左ノ如シ。

五%石炭酸水 一〇〇c.c.

「フクシン」粉末

一gr.

無水酒精

一〇c.c.

「フクシン」色素ノ醫治効用

「フクシン」特ニ「カルボール」溶液ハ強キ殺菌性ヲ有シ細菌ノ發育ヲ制止スルカアリ、故ニ創傷感染ヲ防ギ若クハ既ニ化膿セル場合ニ制腐藥トシテ用フルコトヲ得ベシ。殊ニ組織ヲ滲透シテ深部ニ働キ且ツ創表ニ於テ色素皮面ヲ作り自他ノ刺戟ヲ防グノ効アリ。

(一) 眼科ニハ特ニ眼瞼縁炎或ハ結膜炎ニ塗布シテ甚ダ有効ナルヲ認ム。

(二) 耳科、耳漏ニハ綿球又ハ「ガーゼ」ニ浸シテ之レヲ用ヒ鼻及ビ口腔咽喉ノ疾病ニハ綿塊ニ浸シ之レヲ以テ其ノ粘膜ニ塗布スレバ腫脹ト疼痛トヲ去リ、特ニ結核性潰瘍ニ用ヒテ著効アルヲ認ム。

(三) 婦人科、膾加答兒、子宮内膜炎並ニ外陰部ノ糜爛面等ニ毎日一回宛綿球ニ浸シテ塗布シ或ハ「タンボン」ニ浸シテ用フルトキハ炎症ヲ去リ分泌ヲ減ジ甚ダ佳効アルヲ認ム。

(四) 皮膚科、急性或ハ慢性ノ「デルマチチス」ニ用ヒテ無比ノ良劑タリ、又「エクトエーム」ニモ之ヲ用ヒ特ニ小兒ノ「エクトエーム」、「インテルトリゴ」ニ特効アリ。

(五) 結核並ニ癩性潰瘍或ハ糜爛面ニ用キテ著効アリ、即チ多年困苦セル癩性潰瘍ニ毎日一回宛之ヲ塗布シ三ヶ月ニシテ其ノ潰瘍ノ全治セシ數例ヲ目撃セリ。

(六) 丹毒ニ塗布シテ其ノ効「イヒチオール」ニ讓ルコトナク且ツ甚ダ便利ナリ。

(七) 火傷ニハ輕重ノ度ヲ問ハズ毎日一回宛之ヲ塗布シ處置スレバ其ノ刺戟ト腐敗トヲ防ギ、甚ダ善良ノ經過ヲトラシム。

(八) 外科的創面ノ不潔ナルカ或ハ腐敗ニ傾キタル場合之レヲ塗布シテ處置スレバ大抵ソノ目的ヲ達スルコトヲ得ベシ。

瘻孔ニハ「ガーゼ」ニ浸シテ之ヲ用フベシ。

(九) 寒性膿瘍或ハ關節結核ニ「フクシンカルボール液五〇乃至一〇〇」ヲ每週一回宛注入シテ甚ダ良効ヲ収ム、若シ沃度仿謨グリセリン」ト混和スルカ或ハ交替的ニ之レヲ用ヒ更ニ佳良ナルヲ認ム。

(十) 赤痢及ビ直腸カタル、頑固ノ直腸カタル或ハ赤痢ニハ單ニ綿塊ニ浸シテ長柄搦子ヲ以テ肛門ヨリ深ク挿入シ置クベシ、斯ク一日一回若クハ二回宛處置スル時ハ頗ル非常ノ効果ヲ奏シ且ツ甚ダ無雜作ナリトス。

「フクシンカルボール液」ハ含有石炭酸ノ効力多少伴フト雖モ石炭酸ノ毒性ハ「フクシン」ニヨリ脱却セラレ局量ヲ稍ク超過スト雖モ更ニ「カルボール」中毒ノ危險ヲ見ルコトナク「フクシン」ハ組織並ニ細胞ヲ浸色シ、病的要素ハ之レニヨリテ死滅シ特ニ肉芽面ニ色素皮層ヲ形成シ肉芽ヲ保護シ、剩餘ノ色素ハ漸次發生セル分泌物ニ向ツテ對應染色シ其ノ刺戟ヲ防止スルヲ以テ甚ダ感謝スベキ佳効ヲ認ム。特ニ結核菌或ハ癩菌ニ對シ頗ル特異ノ浸色力ニヨリ是等ノ細菌並ニ浸出物ヲ死滅セシムルニヨリ之レヲ應用シテ患者ノ快感ヲ奏スルコト亦疑ヲ入レザル處ナリ。是ヲ以テ余ハ既ニ數年間之レヲ用ヒテ屢々患者ノ感謝ヲ受ケ得タル藥劑ノ一ナリトス。